



介護現場の負担軽減と事務の効率化が期待できる  
介護テクノロジーの普及に向けて

松山市経営者向け介護DXセミナー

CONFIDENTIAL

Copyright 2025 by Zenkoukal  
No part of this publication may be reproduced,  
stored in a retrieval system, or transmitted. In  
any means electronic, mechanical, photocopying,  
recording, or otherwise without the permission  
of Zenkoukal this document provides an outline  
of a presentation and is incomplete without the  
accompanying oral commentary and discussion.

# 思考法を変えれば、現場は変わる！ 明日から始める介護DX入門

2025年12月12日  
K H三番町プレイス



# 株式会社善光総合研究所について

介護現場・経営・AIの専門家集団が、事業者の課題解決を支援します。

## 会社概要

法人名称 株式会社善光総合研究所  
 設立年月日 2022年9月1日  
 本部所在地 東京都港区南青山6丁目6番22号  
 従業員数 27名（令和6年11月現在）



### 代表取締役社長

宮本 隆史 Takashi Miyamoto

2007年社会福祉法人善光会に入職、2013年には善光会内に「介護テクノロジー研究室」を設置、2017年より理事、最高執行責任者、統括施設局長、2023年に株式会社善光総合研究所を立ち上げ、現職  
厚生労働省 社会保障審議会検討会等 政府機関の各種委員も務める



### 取締役

前川 遼 Ryo Maekawa

2009年厚生労働省に入省、老健局副課長兼生産性向上室グループリーダー、大臣政務官室筆頭秘書官等を歴任、2020年に株式会社ディー・エヌ・エーに入社、CEO室 担当部長、2022年社会福祉法人善光会に入職し、2023年に株式会社善光総合研究所を立ち上げ、現職



### 経営顧問

藤野 英人 Hideto Fujino

レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長、創設大学ソーシャルシステムデザイン学部客員教授  
2024年9月に株式会社善光総合研究所の経営顧問に就任、新規事業の加速化に伴う会社経営全般・財務面でのサポート



1. 研修プログラムは全て善光総研が作成。  
内容は、善光会が開発した「スマート介護士育成プログラム」を踏襲

2. メイン講師は、善光総研社員を中心に構成

# 日本の介護テクノロジー利活用の進展への関わり

善光会の取組・実証等により、介護テクノロジー活用の介護保険制度の改正が実現。

## ✓ 令和3年度介護報酬改定

見守り機器を導入した善光会オペレーションが、夜勤における日本全体での介護モデルに取り入れられました。

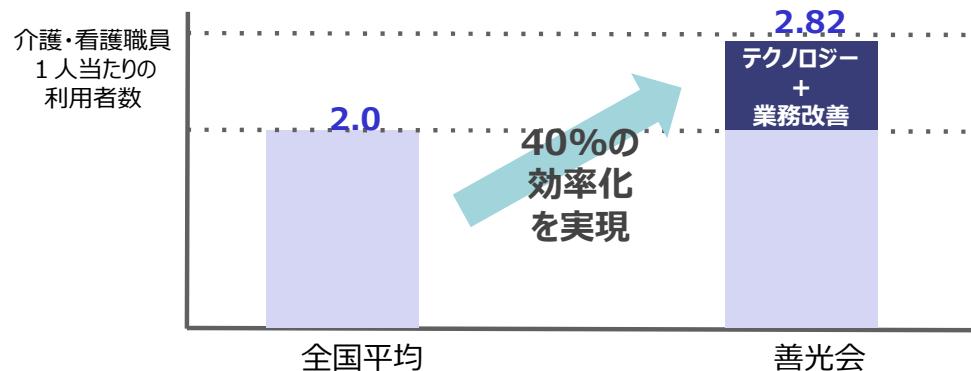
## ✓ 令和6年度介護報酬改定

新設された生産性向上に関する制度では、善光会で採用している見守り機器・インカム・介護記録ソフトウェアの利用が算定要件として設定されています。

また、弊社代表と内閣総理大臣・デジタル大臣との意見交換や、政府主催の会議における弊社代表の発言を受け、こうした制度の見直しが実施されました。

## ✓ 今後の制度改定

弊社代表が、介護保険制度上の福祉用具、住宅改修の内容等について検討を行うために国が設置する社会保障審議会の検討会において令和6年度から委員に就任し、今後の制度改定にも参画していきます。



# 本日のアジェンダ

---

- 1 なぜ今、変わらなければならないのか
- 2 DXの本質と3つの思考転換スイッチ
- 3 明日からできる“小さな成功”のつくり方
- 4 業務効率化×人材評価×オペレーション
- 5 今後の介護経営・報酬改定の方向性

# 本日のゴール：明日への一歩

機械を入れるだけでは現場は変わらない



ICTベンダーでの経験から得た教訓

ご自身の現場の景色を思い浮かべる

明日から実際に動き出すためのヒントを得る

# あなたの現場、20年前から止まっていませんか？



## 変わらない現場



## 変わり続ける社会



高度な個別ケア  
への期待



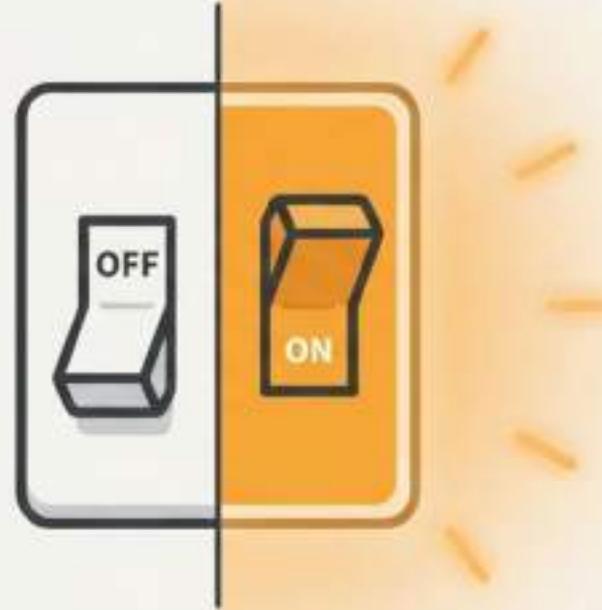
社会全体の  
デジタル化



深刻な人材不足

現状維持は、  
後退。

高い機械を入れることではありません。



DXの本質は、「仕事の再設計」です。

# スイッチ1：できない理由探しをやめる



「人がいないから無理」

「少ない人数でも  
ICTでできるのでは？」

## スイッチ2：聖域をつくらない



法律と安全以外、すべてが見直しの対象。  
「昔からこうだから」を疑う勇気。

## スイッチ 3：個人の頑張り依存からの脱却



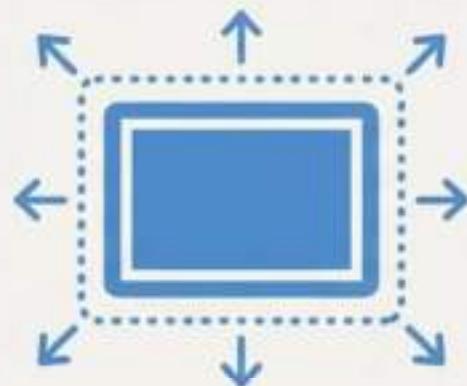
「あの人がないと回らない」

「誰がやってもできる仕組み（再現性）」

# 思考を変える、3つのスイッチ



できない理由探しを  
やめる



聖域をつくらない



個人の頑張りから  
仕組みの力へ

# 「時間がない」からこそ、まず「時間を作る」



- 週に1回、1時間だけ。
- 「業務改善ミーティング」を始めよう。
- (例: 重複している転記を1つなくす)

# お金をかけずに、明日からできること

ビジネスチャット



音声入力



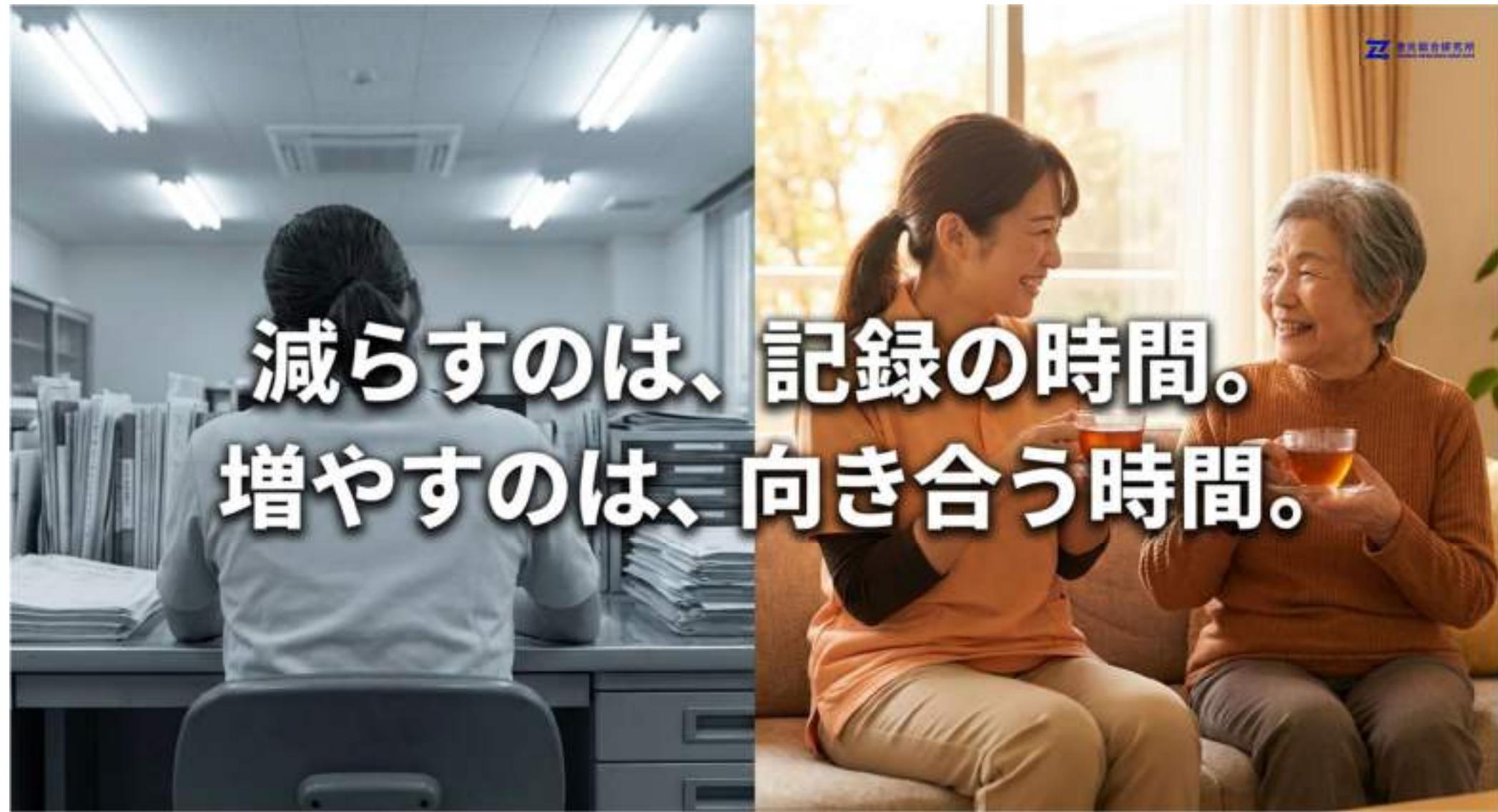
記録時間は半分に。報告は一目瞭然に。

# センサーは「監視」じゃない。 「睡眠サイクルを知る」味方。



不要な訪室

朝まで、ぐっすり



減らすのは、記録の時間。  
増やすのは、向き合う時間。

# 効率化がもたらす3つの価値

働くスタッフの納得感とやりがいへ



標準化



データ化

基準が明確になり公平な評価へ

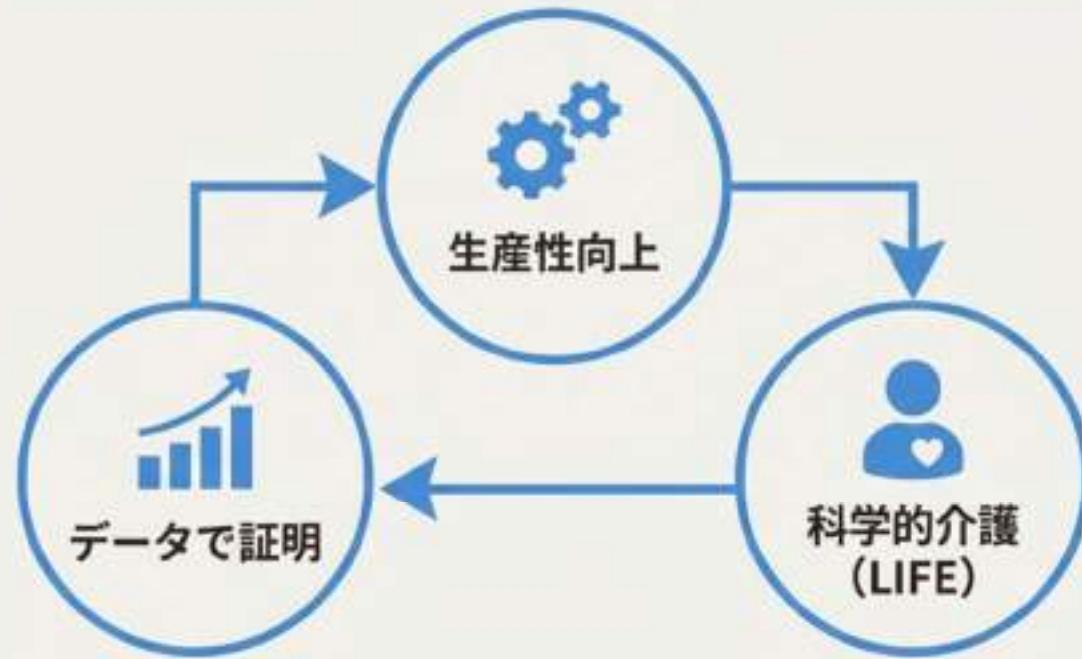
隠れたファインプレーを可視化

ムダが減り本来のケアが可能に



時間創出

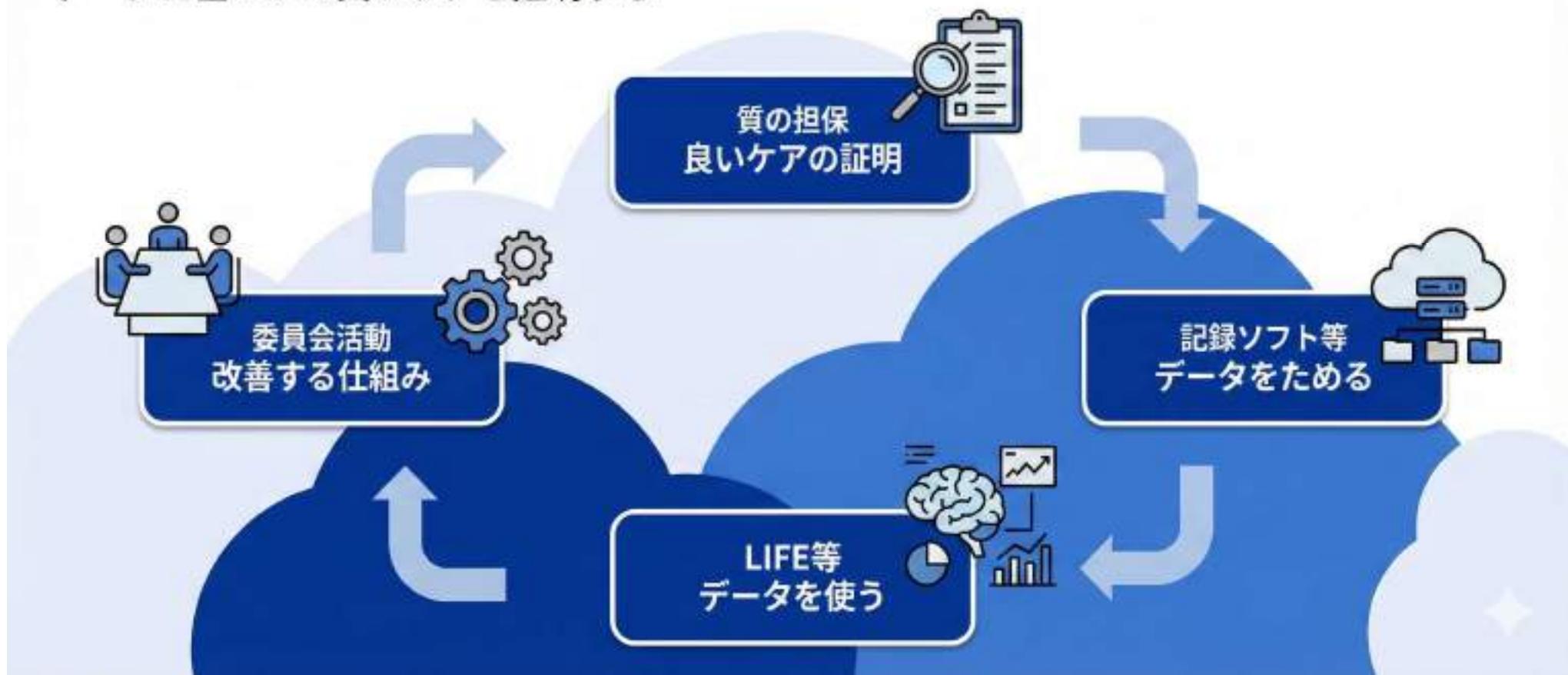
# 国が求めるのも、「データに基づく良いケア」



今日の一歩が、未来の評価と経営の土台になる。

# 法人が準備すべきサイクル

データに基づいて良いケアを証明する



# 人を変えるな、仕組みを変えよ。

DXは、介護の本質である「温かい時間」を  
取り戻すための、最強のパートナーです。



さあ、あなたの現場の「スイッチ」を入れよう。

# 介護現場の未来を変えるDX・業務改善セミナー

(株)善光総合研究所 今村貴志/池谷隆弘



## 4. 働きやすさと評価制度へのプラス効果 (Positive Impact)



### 1. なぜ今、変わらなければならないのか (Status Quo & Crisis)



20年間変わらない業務  
(例:紙の記録/一斉申し送り/属人化シフト)



急激な変化  
(利用者ニーズ高度化/デジタル化/人材不足)  
**「現状維持=後退」**

◆個人ふりかえり(2分):  
あなたの現場の「昔から  
変わっていない非効率」は?

### 2. DXの本質と、3つの思考転換スイッチ (Core & Mindset Shift)

#### DXの本質 = 仕事の再設計 (リ・デザイン)

≠ ツール導入が目的

スイッチ①:  
できない理由探しをやめる  
(人がいない→ICTで補う?)

スイッチ②:  
聖域をつくらない  
(法律・安全以外すべて見直し)

スイッチ③:  
属人化から脱却  
(再現性のある"仕組み"へ)

◆会話タイム①(4分):  
自分の現場で変える  
必要がある点

### 3. 明日からできる “小さな成功”的つくり方 (Small Wins)

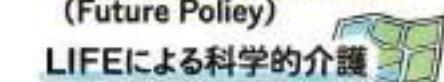


① まずは「時間」をつくる  
(週1回1H改善MTG, 1週間以内に実行)

② お金をかけずに  
デジタル活用  
(ビジネスチャット、写真共有, 音声入力で記録半減  
※個人情報注意)

③ 必要に応じて  
本格ICT  
(介護記録システム, 見守リセンサー→睡眠把握  
→不要訪室削減, 安眠へ)

### 5. 今後の介護経営・報酬改定の方向性 (Future Policy)



生産性向上推進体制加算  
ICT前提の人員配置柔軟化

「良いケアをデータで証明する」  
ことが必須へ

### 6. 明日への一歩 (Next Step)

◆会話タイム②(4分):  
あなたが“明日から実行できる  
小さな一歩”は?  
(例:チャット提案/音声入力試行/  
申し送り見直し)

〈まとめ〉

人を変えるのではなく、仕組みを変える。  
DXは“温かいケアの時間”を取り戻すための手段。  
今日の学びを、まずは小さな一歩から。